

ドルダーバー 製作方法

■ドルダーバーの概要

ドルダー教授により開発されたドルダーバーは、局部床義歯やオーバーデンチャーのためのリジッドな連結装置です。いくつかの支台をバーにより連結する場合や(図1)、ストレートなバーでは2本の支台を連結出来ないような症例(図2)に使用します。バーは、根面板、クラウン、またはインプラント部構造に使用し、ろう着によって取り付けます。

※鋳接は適用できません。

《注意》

- エリトア製のバー・メールパーツは軟化された状態で供給されます。
- ノンプレシャス合金でできた支台へのバー・メールパーツのろう着は、金属腐食のリスクがあり望ましくありません。

■軟化・硬化熱処理

バー構造とろう着後、徐冷しなかった場合は下記の方法により硬化熱処理を必ず行ってください。

[軟化熱処理] 700°で10分間の熱処理を行った後に水中で急冷

[硬化熱処理] 400°で15分間の熱処理を行った後に徐冷

■ろう着用模型の製作

クラウン・根面板とバーの間の連結部は適切な大きさを確保してください。慎重に連結されたバーと支台を作業模型から取り外し、ろう着用埋没模型を製作します(図3)。

■エリトア製フィメールの取り付け

フィメールを適切な長さにカットします。この際、バー・メール全体の長さに合わせる事が望ましいです。こうすることで、誘導性が増し、不要な義歯の動きを妨げることができます(図4)。

メールにフィメールを装着し、バーと粘膜間のスペースをブロックアウトし、その際は根面板とフィメールの高さの1/2としてください(図5)。

《注意》

フィメールの保持部が破損しないように、曲げる際は細心の注意を払い一回までとしてください。

■エリトア製フィメール・維持力の調整

バー用アクチベーターセットの中から適切な物を選び、慎重にラメラを内側に曲げることで維持力を増すことができます。

維持力を弱めるには、専用のディアクティベーターをフィメール内部に必要とされる摩擦維持になるまで押し込みます。

■チタンフィメールを使用する場合

チタンフィメールには摩擦維持のある赤と黄のフリクションインサートがはじめからセットに含まれています。3.5mm毎についている分割溝をカットすることでバーのフィメールの長さを調整できます(図6)。カットしたエッジ部はラバーポイントにより鋭利な部分を研磨してください(図7)。

作業模型上で、フリクションインサートを装着後、メールにフィメールをセットします。粘膜とバー間、あるいはインプラントや根面板とバーの間のアンダーカットはワックスでブロックアウトしてください(図8)。

■フリクションインサートの装着

プラスチック製のフリクションインサートは、インサート挿入ジグにより取り付けます(図9)。クリック音によってプラスチックインサートがフィメール内の所定の位置に納まったことがわかるようになっています(図10A-10B)。症例に応じて異なった維持力のリテンションインサートを使用することも可能です(図11)。患者が新しい補綴物の取り扱いに慣れるまではインサートは少なめにし、2~4週間使用してください。

《注意》

技工操作に使用したフリクションインサートは、患者に使用しないでください。

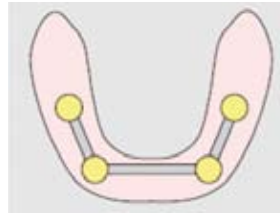


図1



図2



図3



図4

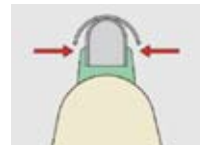


図5



図6



図7

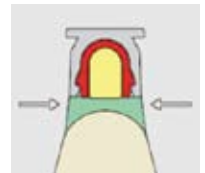


図8

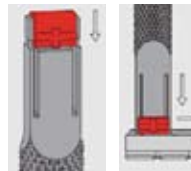


図9

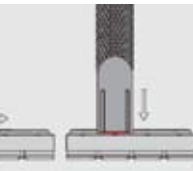


図10A-10B

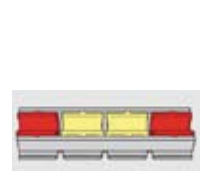


図11

■リテンションインサートの取り外し

リテンションインサートは、専用のアタッチメントツイザーでラメラの端を掴むことで容易に取り外すことができます。

■維持力の調整

摩擦維持力の調整には3種類のフリクションインサートを利用します。

- フリクションインサート黄/スムーズフリクション
- フリクションインサート赤/ノーマルフリクション
- フリクションインサート緑/ストロングフリクション

《注意》

維持力の強さはフリクションインサートの使用数によっても変化します。

■アフターケア

義歯は少なくとも1年に1回はリコールし、適切に粘膜による支持が得られているかを確認し、必要な場合はリライニングを行い過剰負担を避けてください。特に遊離端の症例は注意が必要です。また、リコール時にはリテンションインサートの交換をお勧めします。

■義歯の再生・リライニング

義歯の再生や粘膜床のリライニングが必要な場合、バーを作業模型上に移すために、専用のトランスファージグを使用してください。